

1. 受動態とは

受動態とは、「～される」を意味する表現です。「be 動詞＋過去分詞」の形を使います。受け身を表現するものですね。ちなみに「～する」という形の文は能動態といいます。

過去分詞を知らないとできません。大変ですが、教科書や辞書で確認して覚えていくしかありません。今の段階では、問題で出てきたものを確実に覚えておこう！

2. 日本語で受動態の訓練

下の能動態の文を見てください。

I like this book. (私はこの本が好きです。)

この文を受け身の「～される」の文にしてみます。やり方は簡単！日本語で主語と目的語を入れ替えて、同じ意味の文を作ると自然に受け身の文になります。

主語＝私は 目的語＝この本が

これを入れ替えると、「この本は私に好かれています。」このように受け身の文ができあがります。

3. 受動態の肯定文 主語＋be 動詞＋過去分詞＋～by＋人.

「... (誰) によって」を表す場合は **by** を使います。

例文：この本は私に好かれています。

⇒まずは単語に

この本は 私に 好かれています。

(this book) (by me) (is liked).

⇒これを 主語＋述語＋～. に並べると、

This book is liked by me. (完成)

これで **OK** です。もっと簡単にやり方を定義すると、

- ①主語と目的語を入れ替える
- ②be 動詞＋過去分詞の形にする
- ③必要に応じて **by**＋人を加える

この流れで英作すれば受け身が完成します。また、受け身の文は **be** 動詞の文なので、過去形や未来形にするには、**be** 動詞を過去形にする、**will** をつける、だけで **OK** です。

例文：〈過去形〉

The story was written by him ten years ago. (その話は10年前に彼によって書かれました。)

〈未来形〉

A new building will be built here. (ここに新しいビルが建てられるでしょう。)

4. 受動態の否定文 主語＋be 動詞＋not＋過去分詞＋～by＋人.

受動態は be 動詞の文なので、**否定文は「be 動詞＋not」の形にします**。未来形の場合は「will not be＋過去分詞」にしましょう。

例文：〈現在形〉

This story is not written by him. (この話は彼によって書かれてません。)

〈過去形〉

This story was not written by him. (この話は彼によって書かれませんでした。)

〈未来形〉

This story will not be written by him. (この話は彼によって書かれないでしょう。)

5. 受動態の疑問文 be 動詞＋主語＋過去分詞＋～by＋人.

受動態は be 動詞の文なので、**疑問文は be 動詞を文頭にします**。未来形の場合は will が文頭に来ます。また、答え方ですが、疑問文に合わせて主語を変化させましょう。ただし、未来形の場合は will を使って教えてください。

例文：〈現在形〉

Q: Is this book bought by her? (この本は彼女によって買われますか。)

A: Yes, it is. / No, it's not. (はい/ いいえ)

〈過去形〉

Q: Was this book bought by her? (この本は彼女によって買われましたか。)

A: Yes, it was. / No, it wasn't. (はい/ いいえ)

〈未来形〉

Q: Will this book be bought by her? (この本は彼女によって買われる予定ですか。)

A: Yes, it will. / No, it won't. (はい/ いいえ)

1. 第5文型とは

第5文型は、「**S+V+O+C**」(主語+動詞+目的語+補語)の形をした文のことで、目的語(**O**)=補語(**C**)になるのが特徴です。

例文 : **We call him Terminator.** (私たちは彼をターミネーターと呼びます。)

彼 (him) = ターミネーター (Terminator) 　どんな人なんですか。とりあえずめっちゃ強そうですね。上記のように **O=C** が成り立ちます。この文型を第5文型といいます。では次の例文です。

例文 : **I named my dog Tama.** (私はペットの犬にタマと名づけました。)

なんかネーミングが猫ですが... 「ペットの犬 (**my dog**) = タマ (**Tama**)」ですので、**O=C** が成り立ちます。よってこの文も第5文型です。ちなみに動詞としての **name** ってあるんですね～。知ってた人はすごい！！

2. 第5文型で使われる動詞

第5文型で使われる動詞はある程度パターンが決まっています。

①人(生き物)に何かをする動詞

上に出ている例文の **call** (呼ぶ)、**name** (名づける) などがここに属します。

②頭の中で思う動詞

ここでよく使う動詞は、**think** (思う)、**find** (わかる)、**believe** (信じる) などです。

例文 : **He thinks himself handsome.** (彼は自分がハンサムだと思っています。)

みんなの周りにはこういう人いるかな？ これも、自分 (**himself**) = ハンサム (**handsome**) となり、**O=C** で第5文型ですね。では、**find** と **believe** の例文も見てください。

例文 : **I found it true.** **O** (それ) = **C** (真実)　(私はそれが真実だとわかりました。)

例文 : **I believe her honest.** **O** (彼女) = **C** (正直)　(私は彼女は正直だろうと信じています。)

③状態を変えたり維持したりする動詞

ここでよく使う動詞は、**make** (～にする)、**keep** (～にしておく)、**leave** (～しておく) 等です。

例文 : **The news made me happy.** (私はその知らせを聞いて喜びました。)

よくある例文です。この場合、私 (**me**) = 喜び (**happy**) となり、**O=C** で第5文型です。直訳すると、「その知らせが私を喜ばせました。」となりますが、ちょっとダサいので自然な日本語にしたほうがいいですね。では残りの動詞の例文です。

例文 : **Please keep the electric fan running.** **O** (扇風機) = **C** (ついたまま)
(扇風機をつけたままにしてください。)

例文 : Don't leave the light on. O (電気) = C (ついたまま) (電気をつけたままにはいけません。)

3. おわりに

細かく第5文型を紹介しましたが、課題で出てくるのは **make** くらいだったかな？なので最低限 **make** だけは理解しておこう！！ 残りの課題の文法解説はまた後日！！この期間に単語練習等も自主的にやっておこう。